

# 無責任エッセー 旅のハジの書き捨て

福崎かずたろう

時は4月初旬の夜10時10分である。場所は大阪湾内、船の上・・・。

10分ほど前に、出航のドラが鳴った。あとで調べたところによると、ドラは「銅鑼」と書くのだ。広辞苑によると「仏教の法要に用い・・・」とある。なぜ、これを全国的に出航の時に鳴らすのであるか？なぜであろうか。う～んと、一生懸命、力いっぱい5分間ほど考えてみたが、決定的な結論が出ない。ま、乗客乗務員に対するケジメといったところであろう。もう皆さん乗ったからには一蓮托生ですからね、ってなもんであるのか。

ということで私は今、べたなぎの瀬戸内海に行く小船に乗っただけで、けっこう緊張しているのである。船は小さいほど緊張するのではなからうか。飛行機なんかの離陸の時、滑走路をそろそろと走ってから一旦止まって方向変えて、「さあ今から飛び立ちませエンジン全開でっせ！」という状態、くらいの悲壮感いっぱい緊張をしているのだ。やはり船は大きい方が良い、と思う。

前回書いたように、2等室は船底である。9畳くらいの正方形で区切られた部屋が、10ほどある。その中の一つに寝ころがっているのだ。正面の二人はもうすでにおやすみ体勢である。左のおじさんは寝ころがってコミックバンバンを読んでいる。右の壁ぎわのおばはん二人は声高に、島の息子がどーの、高松の伯母がこーのと世間話である。右の学生風の男は、2等室にふさわしくない真緑色のイカレた背広を着ている。そして、壁に背をつけて座り、ビックコミックスピリッツを読んでいる。さすがに船の中でまともな本を読む者はいないようだ。やってみれば分かる。暗くて揺れるため長時間、紙面を凝視することができないのだ。

もう寝よう。ちなみに私、いつでもどこでも寝れるのが特長です。履歴書にも書きました（ウソです）。

ぐれいす丸は揺れることもなく、潜水艦に体当たりされることもなく、無事、高松港についた。朝、目が覚めたら横の学生風以外は全員いなくなっていて、びっくりしてしまった。なんのことはない、高松の前に小豆島に寄港しただけのことだが、う～ん、気が付かなかったですねえ。熟睡ですね、まったく。ま、私なんかは船が沈んでも、気付かずに成仏してしまうタイプなんだろうな。

JR高松駅まで出て、うどんを食べる。駅うどん（というのかどうかは知らんが）と言えども、讃岐うどんの本場だけに、実に美味！高松駅のうどんはもう実に十数回は喰っているわけだが、いつ喰ってもウマイ！よってこれはほんと

に旨い！というわけだな。エセグルメ福崎君のおすすめです。

6:43発快速電車「マリンライナー」に乗り込む。岡山へ行くのだ。わはは。意外だろう。読者の皆さんは私が船に乗った時点で四国旅行か？と思われたかもしれんが、さにあらず。フェイントなのだ。

さて、瀬戸大橋ができて、そろそろ1年、思えば、今年の4月10日にも、親父と二人して、似たような経路で四国側から瀬戸大橋を渡ったなあ。開通の日だったもんなあ、京都線の特急みたいに混んでたもんなあ。40分間つま先立ちだったもんなあ。

で、今日乗った快速も、早朝の列車にしては、けっこう混んでいる。岡山に向かうサラリーマン、OLといったところであろうか。岡山着が7:48であるから、早出にはちょうどいい時間帯なのかも知れない。とすることで、私は越境ビジネス戦士たちに囲まれて、クリームパンとコーヒーで朝食である。うどん？あんなものは目覚し代わりさ。

瀬戸大橋である。「海面からの高さ65m、なんとか初の鉄道道路併用橋で、総工費1兆1800億円、9年数カ月の歳月をかけた世紀の大事業・・・云々・・・マグニチュード8の地震にも絶えられる耐震設計・・・どうのこうの」とアナウンスで、車掌が喋くりまくる。観光客である私には大変有難い話だが、毎日この橋を利用しているビジネス客にはいい迷惑だろうな。例えば地下鉄で、「いま渡っております神崎川は、淀川・安威川を源流とし、長さ10km、工業排水とヘドロのドブ川でありましたものを、地元市町村がどうのこうの・・・」とか言われたらたまらんもんなあ。

しかし、そういえばけっこう地下鉄でも企業の宣伝とかアナウンスしてるなあ。慣れてしまうとお経聴くようなもんで、頭の中を素通りしていくものであろうか。あれも色々パターンを変えて放送したらええと思うんですけどね。「ハァ〜イ！みんな元気かい！今日はいい天気だね。こんな日は〜！エクセサイズ！し・よ・う・ぜ！次は緑地公園！停まっちゃうぜ！イエイ！」ってなのはどうでしょうか。

・・・いいかげんに 第2回 終